

シンポジウム

あの日…

女川で

何が起きていたのか

東日本大震災における大津波および福島第1原発の事故により、原発の安全神話は崩壊し、原発事故が私たちの生命・財産・生活などあらゆるものを奪うことが明らかになりました。いま、原発依存の私たちの生き方は、大きな転換を迫られています。

一方で、このような大事故にもかかわらず、停止中の全国の再稼働を急ぐ動きがあり、宮城県でも、東日本大震災で緊急停止した東北電力女川原発（1～3号機、宮城県女川町）も再稼働が危がれる可能性があります。

しかし、女川原発においても、3月11日および4月7日の地震により、大惨事になりかねない重大な事案が発生していました。女川原発の1～3号機は3月11日、外部電源5系統のうち4系統が遮断され、残った1系統で原子炉を冷却。4月7日の余震でも4系統のうち3系統が遮断されました。津波による被害は施設内建物や重油タンクだけでなく、2号機の原子炉建屋地下3階に海水が流入し、約2.5メートルまで浸水しました。また、非常用ディーゼル発電機2機が使用できなくなり、原子炉冷却ができなくなる寸前でした。

私たちは、これ以上悲惨な原発事故を繰り返させてはなりません。いま、女川原発について知ること、考えることが、私たちの生命・財産を守り、未来をつくることにつながります。

今年5月に女川原発を視察した、吉井英勝衆議院議員が、専門的視点から、東日本大震災で女川原発が陥った事態、今後の危険性について解説し、私たちが安心して暮らせるために、原子力発電所の問題をどう解決していくか、学び、考えるシンポジウムです。

ぜひ、ご参加ください。

2011
10/1 sat
土

入場 午後1時～4時 開場12:30分
無料 仙台弁護士会館 4F

1 講演



あの日・女川で
何が起きていたのか

講師/衆議院議員 吉井 英勝 氏

2 女川原発・地元からの報告



あの日…
女川で
何が起きていたのか

What had happened in Onagawa on that day?

講演

吉井 英勝 氏 衆議院議員

●講師紹介

よしい ひでかつ ◆プロフィール

衆議院議員 1942年京都府生まれ。

京都大学工学部原子核工学科卒。東京大学原子核研究所、東京工業大学理学部物理学科において、真空技術、金属薄膜や絶縁体薄膜の研究に従事。

吉井議員は、東日本大震災発生前より、巨大地震や津波発生時に原発事故から国民を守る視点から、国会において、専門的視点を生かして原発の安全性・耐久性について質問してきました。今回の福島第1原発事故は起こるべくして起こった、まさに吉井議員が「予言」していた事故と言えます。

吉井議員による、原発の危険から国民の安全を守ることに関する質問主意書より引用（平成17年10月31日）「巨大地震時に津波が発生すると、発電所内へ進入する遡行してくる高波とともに、逆に潮が引いて海面が下がることによって冷却水が異常を来す場合がある。そこで、総ての原発のそれぞれの冷却水の取水口の位置（標準水面から幾らか）と波が引いた時の海水面の高さが標準水面から幾らか下ってきているかの関係を明らかにして、巨大地震津波の発生時にも機器の冷却がうまくいくのか、国内の総ての原発について示されたい。」



- 仙台駅から徒歩15分
- 会場には駐車場がございません。最寄りの公共交通機関をご利用下さい。

仙台市青葉区一番町2丁目9番18号